

PBL「Project-Based-Learning」(課題解決型学習)のすすめ

～「主体的・対話的に解決する学習」で総合的な学習の時間を変える～

1 なぜ「PBL」が目されるか

変化が激しく、予測困難な社会において、認知能力・非認知能力をバランスよく育成するために、知識・技能を活用しながら主体的・対話的に学ぶことが重要です。小学校・中学校学習指導要領(平成 29 年告示)「総合的な学習の時間」では『**実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。**』ことが目指す資質・能力の1つとして示されています。

今、総合的な学習の時間等で目指す資質・能力を育成する学習方法の1つとして注目されているのが、PBL(課題解決型学習)です。

2 「PBL」で期待される効果

「**正解のない議論(課題)を通して
問題解決へのアプローチ方法を身に付ける**」

※アプローチ…取り組み方、他者への働きかけ方

「物事を学ぶ(解決する)過程」を大切に組み合わせることで、
論理的な思考力と、豊かな表現力が身に付きます。

その活動や学習を通して

「**主体的・対話的に問題を発見し、解決する能力**」が養われる

3 「PBL」の基本的な形

PBLは、実施形態と課題設定のやり方を組み合わせて実施します。PBLの規模や連携先の有無、児童生徒に取りませたい内容などを考え、PBLの形を設定します。

実施形態

- ◇チュートリアル型:架空のシナリオを元に実施
例)教室で教師からシナリオを提示する。
- ◇実践体験型:実際に社会と連携して実施
例)地域や企業と連携して課題を設定する。

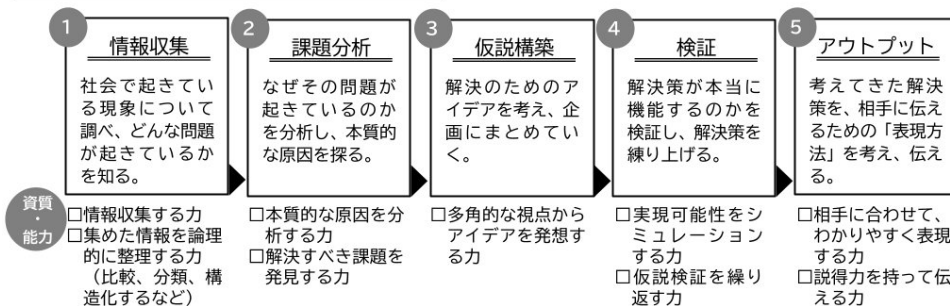
出典:「The continuum of problem-based learning」
Harden, R. and Davis, M.



課題設定

- 外発的:課題がある程度与えられている
例)地域の観光客の減少が課題である。
どんな手立てが考えられるか。
- 内発的:課題を自ら見付ける
例)よりよい学校とするためには、
何が課題でどんな取組が考えられるか。

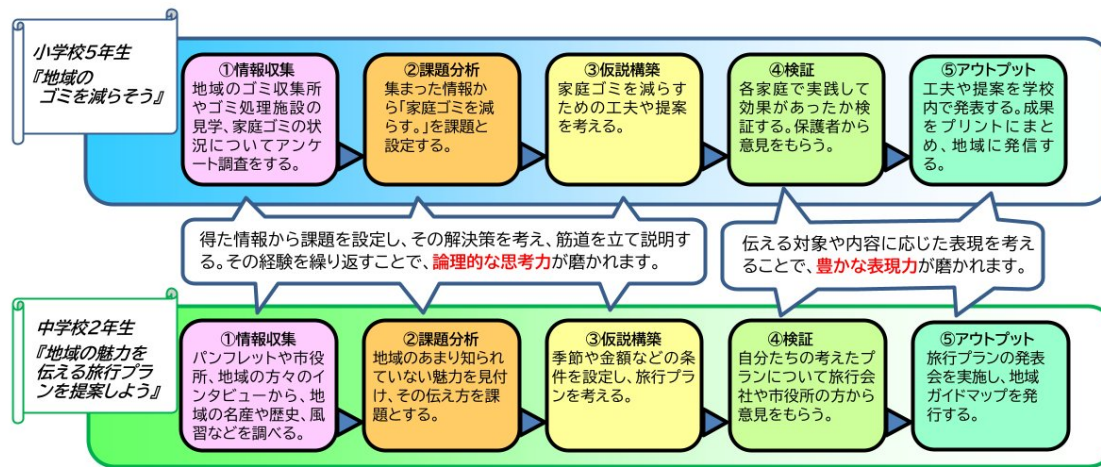
4 「PBL」の基本的なプロセスと必要な資質・能力



出典:「一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会資料」

5 「PBL」をどのように実施するか(活動例)

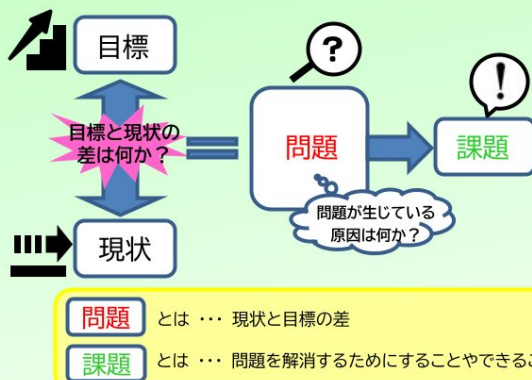
同じ内容でも**アプローチ**を変えることで、児童生徒の学びの質は高まります。総合的な学習の時間等を**再構築**してみませんか？



6 「PBL」を進める上でのQ&A

Q1 どのように課題を設定すればよいですか？

→A1 課題を見付けるには、右図のように現状と目標の差から問題となっている部分を見付けることが第一歩です。その問題の原因を探り、そこから解決できることを課題に設定します。その際、様々な視点から問題や課題を見るように指導することも重要です。出た課題を、「自分の課題」として解釈し、児童生徒自身が主体的に課題を考えられるように進めましょう。



Q2 課題解決型学習を深めるには、どうしたらよいですか？

→A2 課題解決型学習を深めるポイントは様々ありますが、ここでは3つ紹介します。

1つ目は各ステップに振り返りを入れることです。振り返りすることで、自らの学びを見つめ直し、新たな問いやアイデアが生まれるきっかけとなります。

2つ目は探究的な過程を繰り返すように構成を設定することです。振り返りで出た新たな問いやアイデアを次の過程に活かすことで学習に深まりが生まれます。

3つ目は最初のステップである情報収集です。本やインターネットで調べるだけでなく、インタビューやアンケート等で自分たちが集めた客観的なデータが、課題や仮説の裏付けとなり、内容が深まります。

